

「 楽 し い 生 活 」

東広島市立竹仁小学校

4年 渡辺 亜友

去年、弟が生まれました。これでうちは六人家族になりました。わたしは兄弟がいっぱいほしかったのでとても嬉しかったです。そのうえ初めての男の子だったのでみんなの笑顔がさらにふえました。

お父さんとお母さんは野菜のせん業農家です。休みの日ない位に毎日働いています。

私の家にはテレビがありません。テレビを見ていたらきりがなく食事中も見えてしまっていました。食事中のテレビを一番きらったのはお母さんです。仕事から帰って来て休む間もなくごはんを作って、テーブルにならべてもみんなテレビにむかったままです。「おいしい」と言う言葉もテレビに返事したり、その日の出来事もテレビに向かって話していました。そのころはとても心のないような会話をしていたように思います。ちょうど、テレビがこわれたのをきっかけに、お父さんが家からテレビをなくしました。

テレビがなくなってみると不思議と妹達も見たいと言いません。その分色々な事が出来るので、なくても大じょうぶなんだと思いました。今は色々したい事がいっぱい、前は良くテレビを見る時間があったなと思う位です。

お父さんとお母さんが仕事の間は、ピアノの練習をしたり本を読んだり弟の世話をしながら妹たちと自分達で考えて遊んだりしています。私はおり紙も大好きです。おり紙をして遊んでいるうちに季せつごとにおり紙の

かざりを作ったらどうかと思いました。それで五月はこいのぼり、夏はたくさんの魚など作ってトイレのまどにかざりました。トイレに入るたびにお父さんが「季節ごとに楽しいね。」とほめてくれます。それをまねて小さな妹達も自分で作った物をなにかはったりしています。ぐちゃぐちゃやただの丸だったり他の人が見ても一体何だろうと思っても妹也に一生けん命考えたのだろうとみんなやさしく見えています。

弟はまだ一才にもならないので世話もたいへんです。でも私は小さい子の世話が好きなので、となりにすわらせて宿題をしたり家の手伝いをします。妹達とは良く遊ぶけど、けんかもします。悪い言葉を使ったり、だれかをきず付けたりするたびにお母さんにおこられます。

毎日、笑い声や泣き声や歌声が聞こえていてにぎやかです。一日が本当にあっという間です。

お父さんは畑仕事を終えた後、夜、家作りをしています。お父さんは、他にもひつような物やほしい物は、まず自分で作ってみようとする人です。私達もひつような物はまず自分で作れないかと考えます。物だけでなく、食べ物もそうです。おやつもすぐには買わずに作ってみます。

物を作るのは、出き上がるまでに時間がかかって買った時のように目の前にすぐ手に取ることは出来ないけど作っている間の時間を楽しむことができます。そして完成した時の喜びは何倍にもなります。

お父さんやお母さんは、この生活を通して時間の大切さを教えてくれているのだろうと思います。

これからも家族仲良くじゅう実した毎日をすごしたいと思います。